

# 全鉄連情報

平成20年10月17日刊

[第67号]

目次

P1 加盟団体報告

P1 鉄鋼課連絡会報告

P1~2 常任理事会報告

P2~4 鉄流懇報告

P4 企業消息

P4 会員入退会

P5 業況アンケート結果

全国鉄鋼販売業連合会広報委員会主管

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10鉄鋼会館6F ☎03-3808-2350 FAX03-3808-2358

## セーフティネット保証 指定再延長、10月1日より3ヶ月間

経済産業省・中小企業庁は、中小企業のセーフティネット保証制度の特定業種について、鉄鋼シャー・スリット業、建設用金属製品製造業（鉄骨製造業）鉄鋼卸売業などを10月1日から12月31日まで3ヶ月間、指定を再延長した。改正建築基準法の影響で建設関連の中小企業の業況が悪化したことから、鉄鋼卸売業などを追加指定した。その後、建設業界はさらに状況悪化し、それに関連する業種も景況感の落ち込みが著しいため、指定延長が必要との判断によるものである。なお、この制度の利用については各都道府県の信用保証協会か中小企業庁金融課 ☎03-5301-1511（内線5271~5275）にお問い合わせください。

## 加盟団体報告

（平成20年9月1日  
~9月30日）

### 下期に向けて厳しい見通し

#### △東北鉄鋼販売業連合会（齋藤芳郎会長）

9月12日（金）今年度第2回例会を仙台市内のブラザー軒で開催した。齋藤会長は「販売量の減少が懸念され、採算が悪化し、与信問題が高まっている。鉄スクラップ価格が下落し、我々の引き合いも止まった。中小の案件がほとんどなく、需要は減少傾向を強めている」と下期に向けて厳しい見通しを述べていた。また、春先から取り組んでいたミルシート問題を取り上げ「現品とミルシートの一致はコンプライアンス上重要なこと」とより煩雑な業務を伴うこととなるが、従来からの方針を再確認した。なお、当日は今井健雄・住友金属工業東北支社長を講師に招き「鉄鋼を取り巻くマクロ環境」と題する講演会を併催した。

### 「企業の危機管理」と題し秋期講演会

#### △東京鉄鋼販売業連合会（西村達夫会長）

9月25日（木）秋季講演会を浦安鉄鋼会館で開催した。講師には田宮榮一氏（元警視庁警邏部長・元ヤマト運輸㈱代表取締役専務）を招請し、「企業の危機管理…日常業務の適正な推進こそ危機管理の第一歩」と題する講演を90分間聴講した。田宮氏によれば、危機管理といえ、大仰に捕らえてしまうだろうが、日常の些細な事柄のなかにも危機は潜んでおり、それらに適切に対処することが危機管理の第一歩である、と話していた。「蟻の一穴」という言葉を例に引いて様々な事例を挙げて説明していた。また、安全で安心できる社会を維持するためには、教育が基本となり、特に家庭での躾けが必要であると説いていた。なお、当日の出席者は55名。

## 山岸氏総合優勝、ベトグロ獲得・エージシュート達成

10月2日（木）産業新聞社との共催による第30回秋季親睦ゴルフ大会が我孫子ゴルフ倶楽部で開催された前日まで台風15号の影響が懸念されていたが当日は絶好のゴルフ日和となった。参加者35名がシニア、ミドル、ジュニアの3クラスに分かれ優勝を競った結果、山岸勇幸氏（東邦シャリング）がアウト40、イン36、グロス76、ハンデ6、ネット70の成績で総合優勝に輝いた。併せてベストグロス手中に収め、さらにはエージシュートも達成、という快挙であった。各クラス優勝は、シニア・門脇辰夫氏（門脇鋼材）、ミドル・宮越昭吾氏（小澤産業）ジュニア・関根保彦氏（関根床用鋼板）となった。山岸氏は「30回記念大会で優勝できエージシュートも達成できたことは光栄。70歳の時にグロス70でラウンドして以来、エージシュートは何回かあるが、これほど大人数の大会での経験は2回目。せっかくにならないよう亀のバッチをつけ、ゆっくりプレーしたことがよいスコアにつながったのだろう」と優勝の喜びを語っていた。

## 関連会議報告

### 鉄鋼課連絡会

9月26日（金）

会場 鉄鋼会館804号室

出席 松瀨・芳澤（経済省）林・木下（愛知）西村・山岸・佐藤（東京）阪上（大阪）齋藤（東北）今井（北海道）今井（新潟）井上（神奈川）小野（北九州）南（石川）

●全鉄連調べによる3地区12品種18サイズの平均市況は128,500円前月比-1,000円、前年同月比+39,200円。このところ一連のメーカー値上げで紐付き店売りの価格差が拡大した。経済産業省からは、セーフティネット保証が12月31日まで再延長されることになった。ついてはその周知をよろしく願いますとのことだった。

### 常任理事会

●全鉄連会員名簿に掲載する賛助広告の応募状況について事務局より報告があった。広告募集活動を継続していくことになった。

●第5回鉄鋼営業中堅社員研修講座を11月21日（金）浦安鉄鋼会館で開催する。講義内容並びに講師が決定したので、近々募集要項を全会員に向けFAX送信することになった。

●今年の3月から継続されて開催されている鋼材品質証明検討委員会の9月会合について報告があり、今後も同委員会に参画し、成り行きを注視していくこととした。また、同委員会の全鉄連派遣委員に東京の出店文雄氏（出店鉄鋼）が就任したことを了承した。

●現状、全鉄連情報をFAXで送信しているが、メール

で配信することもできるので、そのニーズについてアンケート調査を行い、その結果を報告した。それによればメール送信を希望する事業所が半数以上あった。今後、技術的な問題をクリアーしてそれを実現したいとのことであった。

●恒例の新年賀詞交歓会は、これまで「虎ノ門パストラル」を会場として実施してきたが、明年、平成21年新年の使用を最後に利用できなくなる。そこで代替会場として2~3の候補が挙げられている。これについては年内に会場、日取りなどを決定する方針である。

## 第403回鉄流懇概要

### 様変わりの状況悪化、先行き期待薄

●東鉄連からの概況報告(山岸・佐藤)

△鉄筋…スクラップは下がりすぎ。集荷業者は赤字になっている。販売量は3~4割減少で、秋需はなく、仕事もない。ディベロッパーの倒産が相次ぎ信用不安が蔓延しており、さらには初めて経験する大きな量の落ち込みで状況は悪化している。

△平鋼…荷動きは徐々に減少し、8月盆明け以降さらに減って、電話も鳴らない状態で注文は激減している。8月契約の高値玉が入荷してくるが、転嫁は難しい。スクラップは徐々に戻ってきそう。

△形鋼概況…8月盆明けの東鉄発表以降、急激に落ち込み、9月もその基調は変わっていない。去年は改正建築基準法でガタ落ちになった。今年はそれ以上になるかもしれない。

△H形鋼…5ヶ月前、店売りのH形鋼は1物5価であったが、今は1物2~3価。どのメーカーを主力にしているかで価格が変わってくる。当分、1物1価にはならないだろう。

△一般形鋼…弱含みである。H形鋼に比べて在庫率が高い。それは安い玉がまだあるということだが安値折り合いはできない。これほど動きが悪いのは経験にない。

△C形鋼…6月は仮需で動いたが、7月、8月と落ち込んでいる。値上げ転嫁は3分の2程度で、東鉄の発表後価格交渉が進展しない。秋以降もメーカー値上げの意向は強いが、それを吸収できる市場環境ではない。

△広幅製品…ほとんどがメーカー直送である。物件によってその都度、価格が変わってくる。

△コラム…在庫店が少ない。メーカー主導の順調な価格展開で、しばらく強気な状況であろう。

△薄板概況…荷動きがよくない。在庫に対してタイト感がなくなっている。輸出向け製造業は良好。東南アジア市況は弱含みである。

△冷延…建築関連、弱電などの需要は少ない。液晶、重電はそこそこの動きである。スチールサッシは大型物件だけでなく中小についても紐付き化が進み、末端まで浸透している。メーカー値上げは7月分についても積み残しがあり、荷動き不振もあって、現状の市場展開に付いていけない業者も出てくるだろう。

△表面処理…コイルセンター在庫が増加している。与信不安、建築関連需要不振と状況は厳しい。

△厚板耳付き、切板母材…8月部会調査では販売20%減、在庫5%増。稼働日数もあるだろうが荷動き低調。供給についてはタイトな状況が続き、下期も引受カット

ないしはスキップが行われるだろう。ポスコ、CSCからの輸入材は通常の30%減。中国市況軟化でオファーを下げており、ローグレード品は若干、入着が増えるだろう。建築の落ち込みが大きい。

△中板・ホットコイル…8月の売上が半減しているところもある。店売りは様変わりとなり、好転しない。年内の電炉の値上げはないだろう。価格は横ばいだが、先々期待薄。

△縞板…荷動きは低迷。定尺販売は35%減。過去にない水準である。引き合い自体が少なく、打つ手がない。如何に状況が悪いか、これが数ヶ月続くと大変なことになる。

△厚板定尺…紐付きに関しては順調。現場が少しずつ動き出している。価格は上がり続け、仕事は減り続け、どこまでいくのか底無し沼状態である。流通は売れない状況に加え逆ぎやの可能性もある。

△鋼管概況…全体感として、鋼管だけはいはずがない。8月より落ち込み愕然としている。高炉と溶協では違うが、高炉のなかでも格差が広がっている。シームレス管でも配管と機械構造用では状況を異にしている。溶協は悪く、在庫は増えている。

△高炉品…6月ごろは価格転嫁がすんなり通っていたが現状はそうでなくなった。9月は停滞した動きで、10~12月は厳しくなるだろう。

### 紐付き店売りの価格差拡大

●OSAからの概況報告(阪上)

8月販売は記録的な落ち込みで全体で前年比18%減少であった。品種別では薄板が前年比11%減となり昨年1~3月にマイナスとなって以来のことである。電炉品は前年比20~30%減で落ち込みが著しい。9月帳破明け後、若干引き合いが戻っている。鉄筋は8月の東鉄大幅値下げの発表後、成約が7~8割減で壊滅状態。スクラップ値下がりもあり修正安になってくるのではないかと。酸洗、冷延など板関連で紐付き品の市中還流がささやかれている。大型建設関連も一段落している。大型物件の話はあるが、施主とゼネコンの価格交渉が難航している。製造業でも生産計画が下方修正され、それが下請に影響を及ぼしている。これからますます、そのような話が増えてくるだろう。紐付き向け値上げはどこまで進展しているのか。紐付き店売りの価格差はさらに拡大している。仕入れは高値玉に入れ代わり、採算的に厳しい。異常な価格体系により市場に歪みは生じている。納得できる価格への移項をお願いしたい。

●愛鉄連からの概況報告(木下)

当地区も厳しい。スクラップの暴落、9月、10月積み連続値下げなどあって先行き不安である。流れとして実需の大幅な低落もあって、自社材の圧縮を進めているそれが8月より在庫調整として始まっているようだ。市況は弱含みから値下げとなった。収益悪化にも拍車が掛かってきた。信用不安、マーケットの縮小と今年の下半期は非常に厳しい経営環境になるだろう。6、7月を境に潮目が変わったと思う。8月は過去にない販売不振であった。電炉はスクラップ高騰で製品を上げてきた。しかし、スクラップが急落し、流通、ユーザーには不安感が台頭している。これを解消しないと購買意欲は起きない。

## 消える建設計画、縮む需要

### ●東北からの概況報告（斎藤）

これまでの推移は、5月最悪で6、7月と持ち直したが、8月の販売は最悪であった。スクラップが下がったことで丸棒も下がったが、需要がなくなっている。昨年は100棟以上のマンション建設計画があるといわれていたが、今はなくなった。信用不安が顕在化し、地場有力ゼネコンの破綻が相次いでいる。地場密着型なので不良債権をつかまされている。みんな仲良く引っ掛かっている状態だ。これだけ需要が減ってくると、もともと小さいマーケットなので安値折り合いも出てくるだろう。

### 蔓延する与信不安、製造業も落ち込む

### ●神奈川からの概況報告（井上）

市場環境は予想以上に悪くなっている。建設機械、産業機械、工作機械は内需不振に加え米国向けも落ち込んでいる。需要は失速、良い分野がない。紐付きの酸洗が市中に出回っている。ディベロッパー、ゼネコンの信用不安が蔓延しており、前金でなければ商売が成立しないケースもある。道路、土木関連は例年並に出ているが、Mグレード以下のファブは仕事が少ない。与信管理がますます難しくなっている。

### 需給は全く様変わり

### ●新潟からの概況報告（今井）

建設関連の業況悪化は当地区も同じである。地方のコイルセンターは仲間売りがなく、全量ユーザー売りであるため、自社材の比率が低い。8月は前年比20%前後の量的落ち込みであった。産業機械、配電盤は前年比半減。薄板は4月、7月と値上げがあった。7月の段階で上げのタイミングを見誤り、足元の乱れがはつきりしてきた。8、9月の需要減が厳しい。今後、再値上げという話もあって、現状では売り方が難しくなっている。需要減で困っているなか、店売りと紐付きの価格差が拡大している。数ヶ月前と全く違った需給関係になっているが、高炉は最高生産を続けている。この下期、難しい舵取りを迫られている。

### 民間建設激減、需要回復望み薄

### ●北九州からの概況報告（小野）

手形が紙切れになるのか、落ちるのか。そんな商売を強いられている。民間マンション、ホテルの大半は計画中止である。福岡は120万都市であるが、3万戸のマンションが余っている。土地を押さえて、これから建設に取りかかろうとする案件が4つあるが、頓挫している延期するのか中止になるのか、先が見えていない。建築は不安だけである。反面、工場、倉庫、商業施設、病院などの大型案件はあるので、Hグレードファブは結構満杯になっている。要するに不安があるところには仕事が少ないということだ。紐付きと店売りの格差があるので、少し需要が悪くなると市中に還流する。この悪循環が市場を更に悪化させる。事態は悪い方向であるが、なんとかソフトランディングさせたいものだ。

### 避けられない下期の景況悪化

### ●林会長（総括）

各地区の業況アンケート結果にもあったように「販売数量減、収益減、不良債権のトリプルパンチ」（東北）

「販売単価下落、数量減、信用不安の三重苦」（静岡）  
「鋼材市況の弱含みと販売不振と要注意企業増加の三重苦」（三重）が足元の状況をすべて表しており、ここ10数年で経験したことのないような空前の売上減となっている。三重苦以上に深刻なのは、やはり米国発の金融不安であり、サブプライムから端を発した問題がどんどん広がっている。米国は100兆円以上の公的資金を導入しようという状況であるが、更なる上積みが必要ともされている。バーナンキFRB議長によると、金融不安はあと2年ぐらい続くと発言したことが報じられている。鉄鋼流通の足元の収益は、8月のDI+106と三桁が続いているが、今年後半から来年にかけて、現在の半分以下の40～50に悪化すると危機感を抱いている。歴史的な資源インフレが続くなか、世界景気が変調を来しており、環境変化のスピードが激しく、米国発の景気後退が全世界に広まっている。先日の経済産業省のヒアリングでも申し上げたが、売り先がなく本当に仕事がない状況である。外需主体の製造業で支えていた国内景気も後退し、減退局面に入るものと考えられる。また、新政権が発足したものの、財政再建を始めとする山積する課題への取り組みに迫られており、国内景気は一層厳しい局面を迎えることが想定される。よって、今後はより慎重な対応が必要であると考えている。

\*この後、商社・メーカーから発言があった。なお、発言内容については別紙資料3-1、3-2を参照。

### 需要に対しては慎重な見方で臨む

### ●経済産業省（石川課長）

鉄鋼流通の皆様方ほぼ全員からご指摘があったように地域レベルで厳しい状況にあることは、既にいろいろな形で情報として伝わっている。スクラップ価格低落による鋼材の先安感や需要家の買い控えの動きを誘発し、さらには昨今の経済情勢もあって、鋼材需要の動向を捉えることが非常に難しくなっている。林会長から従来ご指摘いただいているように、このような時期には需要の動きを今まで以上に慎重に見て、それに対応した動きをとることが重要であると考えている。経済産業省としても鉄鋼メーカーには鋼材需要の下振れ懸念が今後あるので、まさに適正生産の対応が必要となることを呼びかけていきたい。また、中小企業関係も含めて与信不安が顕在化しているので、経済産業省では従来からセーフティネット保証などの措置を実施しているが、今まで以上にできることを行っていきたいと考えている。

### 需要実態に則した生産で

### ●小野会長

足元の状況について、2～3のキーワードを挙げて言えば「二極化あるいは跛行性」「前月比減・前年比横ばい」そして「先行き不透明」となる。昨年9月のDIと比べると条鋼類は悪化しているが、鋼板類は著しく変化していない。全国市中鋼材数量調査を見ると、H形鋼と小形棒鋼の販売が前月比10%減、前年比15%となっている。一方、鋼板は前月比20%減となっているが、前年比ではほぼ横ばいとなっている。内需あるいは外需につながっている品種、分野による跛行性が強まっている。このような状況にあって、流通、商社、メーカー間の温度差が少し拡大している気がする。厚板など一部の品種では相変わらず需給が逼迫しており、扱った品種が異なることによる温度差は拡大し、変化が激しくなってい

る。こういう流動的な時期だからこそ、需要家、流通、  
商社、メーカーがしっかりと意志の疎通を図り、皆が同  
じ方向を向いて取り組むしかないことを強く感じている  
7月の薄板3品在庫の数字は先行き不透明と言われるな  
かで、非常に高く、過剰と言えるレベルではないかと思  
う。我々が想定している以上に実需は減っており、これ  
までの実需見合いの生産・販売実績を総点検し、一層の  
緊張感をもった対応が必要である。JFEスチールの例  
で申し上げると、一度決めた計画であっても環境変化に  
対応して、繰り返しローリングさせていくことを徹底し  
て行っている。不要不急なものは一切作らない。本当に  
必要なところにきちんと鋼材が届いているかという、取  
り組みを徹底して行っていく必要があると考えている。

#### 会員企業消息（平成20年9月1日～9月30日）

##### 〔所在地・代表者変更など〕

- アダチ鋼材(株)（愛鉄連）～新代表者に安達道行氏が就任した。
- 荒川鉄鋼(株)（愛鉄連）～新代表者に荒川明子氏が就任した。
- 豊商(株)（愛鉄連）～新代表者に山本博史氏が就任した
- 岡谷スチール(株)（愛鉄連）～新代表者に丸岡勢一氏が就任した。

#### 会員入退会（平成20年9月1日～9月30日）

##### 〔入会〕

\*該当事項なし

##### 〔退会〕

- (有)石田忠商店（東鉄連・城北）
- 蔵鋼材(株)（愛鉄連）

(了)

## 鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について (2008年9月)

発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
発表項目	メタルロン	住友商事	阪和興業	三井物産
1. 需給動向(景況感)	大手ニューザー向け組付は足下未だに好調であるが、先々に不安要素が出てきている。構造用鋼管の市中荷動きはにぶく、在庫流通のメーカーへの申し込みも低調。シームレス鋼管は、国内向け供給が絞られている為、需給縮まった状態が継続している。	7月末の薄板三品在庫は、407万トンと前月比2万トンの減少となった。適正と見られる400万トンからは依然として高いレベルにあり、市中では熱延材に緩和感が強い。建材向けの低調が続いている上、好調だった機械、自動車でも荷動きが鈍化しており、一部業者に売り焦りの気配が見られる。一方で、内外高炉メーカーの生産トラブル等により、タイトな供給は続いており、市況は頭打ち感はあるものの横這いで磨みとどまっている。	国内造船メーカーの繁忙感は継続中。建機は、中小型建機の落ち込みが目立ってきているが、鉱山向け大型建機が相変わらず好調。建築は、中小物件少ないが、大型案件は多い。業種によりまだ模様となってきたが、全体感として、厚板需給は今後もタイトなまま継続すると思われる。市中荷動きは、中小物件の少なさを受けあまよりよくないが、メーカーの枠削減を受けて在庫は少なく、タイト感が継続している。	建設業界を取り巻く環境が悪化してきており、予断を許さない状況。相場の先行きに不透明感あり。
2. 需要産業動向	好調であった自動車向け・建産機向けに生産調整の動きが広まっており、足下の需給には影響ないものの、先々の需給は不透明感を増している。建設向けは低調にて推移。造船向けは引き続き好調。プラント向けは、JOBの延期等も見られるようになっている。	7月の自動車生産台数は108.8万台(前年同月比+24.1%)と好調な輸出に支えられ12ヶ月連続でプラスとなった。7月の新設住宅着工戸数は9.7万戸と前年同月比19%増となり、昨年6月以来13ヶ月振りに増加したが、これは前年同月が建基法改正により大幅に減少したことによる反動であり、過去5年の平均10.5万戸に比べ依然、低水準が続いている。	08年7月の造船手持工事量は、6,908万GTで、前月比110万GT増。建機は、7月度出荷金額2,334億円の前年同月比6.8%増(内需662億円、6.7%減、外需1,671億円13.2%増)。内需で4ヶ月連続の減、外需で7ヶ月連続の増、総合計で2ヶ月振りの増。橋梁は、各ファブの手持工事量多く、ファブ、指定シャシー共に高水準推移。建築は、大型案件は継続して多いが、中小案件は相変わらず少なく市中容断業者の加工量も少ない。	大型プロジェクト案件に関しては、2009年6月頃まで見えているも、中小案件は低調。
3. 輸出入動向	7月度の鋼管輸出入動向は、6月比輸出入共ほぼ横ばいとなっている。	7月の薄板三品入着量は28万トンと前月比10%(26千トン)増加した。品種別では、前月比、熱延が+16%と4ヶ月連続の増、冷延が+18%と4ヶ月振りの増、亜鉛メッキが+2%と4ヶ月振りの増と総じて増えており、これが流通在庫を押し上げた要因の一つである。	7月輸入通関実績は、16,679t。前月比7,908t減。中国からが約10,000tあり。前月多いのは、ロシアより約5,000t入着あったため。	全般低調。 FYR) 棒鋼：北京オリンピック閉幕後も中国国内建材需要は盛り上がり欠け、9月に入り同国鉄筋マーカーケットは下落に転じている。
4. 海外市場動向	シームレス鋼管の油井管・ラインパイプ向け商談は、来年春季期分まで進んでおり、今の所、原油相場変動の影響は見られない。	主要国の鉄鋼生産は前年を上回る高水準が続いているが、主要市場において鋼材市況は頭打ちとなっており、一部には軟化の兆しが顕れている。一方で中国の鉄鋼輸出が再び増勢に転ずる気配を見せており、世界の鉄鋼需給環境の先行きに十分注視が必要である。	韓国、中国向け造船材が、FOB JPNでkg/140~150で決着した模様。	サブプライムローン問題に端を発し、先行き不透明。
5. トピックス				(1) 首都圏の販売在庫は、9ヶ月連続で、1万戸を突破。企業倒産件数は、8月迄、3ヶ月連続で前年超。 (2) スクラップ動向 (3) 信用不安増幅 →詳細、別途ご説明致します。

## 鉄鋼流通問題懇談会 メーカー発言 (2008年9月)

発表者 発表項目	電炉 合同製鐵	高炉 新日本製鐵
1. 需給動向 (景況感)	<p>○建築着工統計による7月の建築着工床面積は非木造が前年同月比+16%と13ヶ月ぶりに増加に転じたが、鉄筋コンクリート造は同比▼2%と13ヶ月連続の減少となった。</p> <p>○マンション着工戸数は全国で14.1千戸、うち首都圏は7.8千戸と前年同月比増(全国+16%、首都圏+25%)となっているが、前年同月は改正建築基準法の影響から大きく落ち込んだ数値であり、前年4~7月の首都圏平均12.3千戸/月からみると大きく減少が続いている。</p>	<p>4~6月期の実質GDP成長率(速報値)は、前期比年率2.4%減と4四半期ぶりのマイナス成長となった。日本経済は、内需低迷に資源価格高騰、外需減少が加わり、減速している。海外においても、欧米金融収縮の実体経済への波及とインフレによって経済は減速しており、中国は安定的高成長維持へ政策の軸足を移しつつある。</p>
2. 需要産業動向	<p>○5~7月のマンション発売月契約率も首都圏は6.4%、近畿圏6.0%と、昨年以降70%割れが続いており、需要のピークアウトが鮮明となっている。</p> <p>○こうしたマンション販売の失速により首都圏の売れ残りマンションは1万戸超(7月10.9千戸)に膨れており、建設計画の延期や中止、取得用地の売却する物件も出ており在来型のマンション建設に急ブレーキがかかっている。</p>	<p>国内鉄鋼需要は、建設向けが依然として低位に推移しているが、製造業向けは外需を主体として足下までは堅調であり、鋼材輸出もアジア向けを中心に前年比増が続いている。需要拡大を背景に、7月の粗鋼生産量は同月としての過去最高を更新し、経済産業省は第2四半期生産計画における粗鋼生産量を、4四半期連続の3,000万トン台となる3,060万トンと発表した。7月の普通鋼鋼材国内在庫は、メーカー在庫の減少を受け、前月末比24万トン減の512万トンとなったが、間庫在庫は増加した。</p>
3. 輸出入動向	<p>○ピレットの輸出数量は6月が前年同月比+176%の97千ト、7月が前年同月比+160%の122千ト</p> <p>○鉄筋棒鋼輸出数量は6月が47千ト、7月が42千ト(前年同月比+228%)</p>	
4. 海外市場動向	<p>○鉄スクラップ価格の下落や、安価な中国材の流入によりアジア各国の鉄筋市況は弱含みに歯止めがかからない状況となっている。</p>	<p>海外鉄鋼市場では、中国の国内市況が軟調に推移し、米国では需要減少によって在庫率が上昇している。このような中、中国の7月の鋼材輸出量は、前年同月比21.4%増の721万トンとなり、10ヵ月ぶりの前年比プラスに転じるとともに、月間での過去最高を更新した。世界経済の不透明感が増大する中、従来にも増して海外鉄鋼市場における需給環境の変化と中国の輸出動向を注視していく必要がある。</p>
5. トピックス	<p>東京製鐵のスクラップ購入価格(公表値)は岡山工場(陸上)47.0千円/ト、宇都宮工場45.0千円/ト。 (9/19現在)</p>	

9月25日締切で、当会役員168名に対し、このアンケートを行ったところ、96名(57.1%)から回答があり、その結果(太枠内)が下記の通りまとまりましたのでご報告いたします。

\*DI算出方法=(A×2+B×1-D×1-E×2)÷回答数×100

数量落ち込み顕著に

【問1】貴社の8月(先月)の総売上金は、前年同月比如何でしたか。

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	売上 前年比	A	B	C	D	E	計	8月 DI
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		10%以上増	5%以上増	ほぼ横ばい	5%以上減	10%以上減		
▲33	▲57	▲56	▲54	▲74	▲22	36	34	34	▲45	▲53	▲39	数量	6(6%)	5(5%)	21(22%)	19(20%)	44(47%)	95	▲95
▲6	▲47	▲24	▲38	▲53	4	4	110	110	59	+81	+95	金額	35(37%)	15(16%)	22(23%)	12(13%)	11(11%)	95	+54

前月の悪さ引きずる

【問2】貴社営業窓口から見て9月(今月)の販売量は前月比如何ですか。

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	販売量 前月比	A	B	C	D	E	計	9月 DI
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		かなり増	やや増	ほぼ横ばい	やや減	かなり減		
▲58	▲59	▲65	▲66	▲82	▲59	▲34	▲87	▲89	▲75	▲64	▲84	公共建設向		13	26	20	16	75	▲52
▲31	▲64	▲85	▲81	▲84	▲47	▲18	▲67	▲82	▲60	▲54	▲79	民間建設向		14	24	20	22	80	▲63
▲12	▲14	▲11	▲11	▲15	2	2	▲24	▲40	▲28	▲33	▲51	自動車向	1	8	19	14	3	45	▲22
▲14	▲32	▲39	▲44	▲47	▲8	1	▲41	▲59	▲48	▲41	▲67	その他需要家向		15	28	20	11	74	▲36
▲34	▲45	▲43	▲58	▲52	1	3	▲53	▲69	▲47	▲52	▲80	仲間取引		10	20	32	13	75	▲64
▲32	▲46	▲53	▲56	▲61	▲25	▲11	▲58	▲71	▲54	▲50	▲74	計	1	60	117	106	65	349	▲50

採算確保も今後に悪化の気配

【問3】貴社の8月(先月)の企業収益状況は、如何ですか。

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	企業 収益状況	A	B	C	D	E	計	8月 DI
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		黒字	若干黒字	収支トントン	若干赤字	赤字		
52	52	59	71	16	38	116	142	143	128	133	137		38(40%)	32(33%)	21(22%)	4(4%)	1(1%)	96	106

秋需は望めず

【問4】貴社における向う3ヶ月間の需要動向についての予測は如何ですか

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	需要動向 予測	A	B	C	D	E	計	9月 DI
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		増加	微増	ほぼ横ばい	微減	減少		
36	▲4	▲36	▲59	▲29	18	2	▲32	▲30	▲28	▲26	▲34		1(1%)	20(21%)	33(34%)	19(20%)	23(24%)	96	▲45

全品種需給緩むが厚板はまだ逼迫感あり

【問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか。

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	需要状況 見込角虫	A	B	C	D	E	計	9月 DI
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		非常に不足	やや不足感あり	ほぼ需要均衡	やや過剰気味	非常に過剰		
34	21	±0	▲10	2	13	41	40	44	17	+15	4	鉄筋用丸鋼		4	36	8		48	▲8
6	±0	▲2	▲10	▲6	10	19	15	26	11	▲2	▲4	構造用丸鋼		1	40	4		45	▲7
±0	▲5	▲14	▲11	▲9	11	31	43	22	15	+9	▲4	平角鋼		1	40	8		49	▲14
19	▲8	▲29	▲35	▲3	37	86	97	93	56	+32	7	H形鋼		4	37	1		52	▲13
▲4	▲27	▲31	▲44	▲27	▲4	59	93	95	94	+80	58	コラム	3	14	25	11		43	+44
▲3	▲13	▲24	▲14	▲15	12	45	40	30	21	+8	▲11	小形山形鋼			44	11		55	▲20
▲7	▲10	▲24	▲14	▲13	13	49	48	34	16	+11	▲7	中形山形鋼			42	13		55	▲24
±0	▲8	▲19	▲13	▲10	20	79	78	61	48	+31	12	溝形鋼		6	39	8		53	▲4
▲19	▲23	▲31	▲33	▲25	▲15	8	12	2	▲3	▲15	▲20	軽量形鋼C形		1	33	15		49	▲29
▲11	▲16	▲18	▲24	▲12	▲14	13	16	5	2	+3	▲3	軽量形鋼広幅		1	28	6		35	▲14
▲22	▲24	▲27	▲30	12	45	91	69	73	46	+32	2	冷延薄板		5	37	6		48	▲2
▲18	▲13	▲19	▲23	12	48	87	75	52	32	+19	▲3	熱延薄板		4	40	14		58	▲17
▲16	▲24	▲24	▲25	±0	36	82	67	57	34	+12	▲8	表面処理鋼板		6	29	15		50	▲18
▲30	▲24	▲24	▲28	39	100	135	98	65	34	+20	▲14	酸洗鋼板		6	23	20		49	▲29
▲17	▲6	▲18	▲13	11	69	92	78	48	44	+17	▲4	中板	2	3	43	13		61	▲10
48	29	38	47	63	90	105	122	102	88	+86	76	厚板	7	27	21	3		58	+66
63	50	64	66	83	100	118	120	113	102	+110	100	極厚板	9	18	10	1		38	+92
▲6	▲6	▲14	▲4	▲4	5	42	49	20	25	+9	7	縞板		3	43	1		47	+4
▲16	▲23	▲22	▲29	▲17	▲9	22	26	13	10	+9	0	中径角		3	42	6		51	▲6
▲9	▲18	▲16	▲18	▲14	▲7	24	28	13	12	+13	0	ガス管・黒		4	44	4	1	53	▲4
▲9	▲19	▲18	▲23	▲17	▲6	23	25	15	2	+4	▲6	構造用鋼管		2	38	4		44	▲5
▲1	▲8	▲14	▲14	2	26	61	60	47	34	+24	7	計	21	113	734	172	1	1041	▲2